

2015年 2 月 20 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 喜多悦子 殿

2014年度ホスピス緩和ケアに関する研究助成

研 究 報 告 書

研 究 課 題 : 科学的根拠に基づいた除痛率を用いた緩和医療の質の向上に関する研究

所属機関・職 国立大学琉球大学医学部附属病院 ・ 特命准教授 (診療教授)

研究代表者氏名 増田 昌人

2015年2月20日
琉球大学医学部附属病院がんセンター
増田 昌人

研究報告書

目的

1. 沖縄県におけるがん専門病院と緩和ケア病棟を持つ病院における全てのがん患者に対して痛みのスクリーニングを行う。
2. それらの患者に対して、除痛率を測定する。
3. 教育介入によって除痛率の改善が得られるかどうかを検証する
4. オピオイドの消費量が増加するかどうかを検証する

対象

2014年4月以降に、沖縄県内の5施設（琉球大学医学部附属病院、那覇市立病院、沖縄県立中部病院、豊見城中央病院および南部病院）に入院しているがん患者の中で、**Brief Pain Inventory**、**Functional Assessment Cancer Therapy-General**、痛みの有無、痛みに対する治療の有無を聴取し、いずれかに有りと回答した患者（但し、術後疼痛患者を除く）

方法

1. がん性疼痛に関する聴取
2. がん性疼痛がある患者に対する対応の評価
 - (1) リスト作成とデータの取り扱い
 - (2) 基本情報と処方内容の取得
 - (3) 経過記録表を観る
 - (4) 診察記録を観る
 - (5) 照会内容の作成
 - (6) 内容の保存
3. フィードバックの準備のための研修会
4. 個別の医師を対象としたフィードバック
5. 施設全体へのフィードバック
 - (1) 施設幹部へのフィードバック
 - (2) 結果を参考にしての院内研修会による全職員に対するフィードバック
6. フィードバック前後での除痛率等のデータの解析

結果

1. がん性疼痛に関する聴取

5 病院のうち琉球大学医学部附属病院、豊見城中央病院および南部病院の 3 病院の入院しているがん患者の 80%以上に対して、痛みスクリーニングを連日行えるようになった。具体期には、琉球大学医学部附属病院では、2014 年 6 月にはスクリーニング率が 57.2%だったが、2015 年 1 月には 81.9%と上昇した。残りの 2 病院では、入院患者における連日の痛みスクリーニングの準備中である。

また、琉球大学医学部附属病院では、歯科口腔外科外来患者と一部の産婦人科外来患者に対しても、毎回痛みスクリーニングを開始した。歯科口腔外科外来の患者では、30.6%に身体的痛みがあり、38.9%に精神的痛みがあった。

全病棟における連日の痛みスクリーニングが開始されてから、緩和ケアチームへの紹介患者が 9.2 人/月（2013 年）から、11.5 名/月（2014 年）と増加した。特に、現場の看護師からの紹介が増加した。患者が痛みで困ってから緩和ケアチームへ紹介するまでにかかった日数が、痛みスクリーニングが全病棟で始まってからは、短縮傾向が認められた。

2. がん性疼痛がある患者に対する対応の評価

(1) リスト作成とデータの取り扱い

豊見城中央病院および南部病院では、がん性疼痛（術後疼痛を除く）がある患者を、電子カルテからリストアップしている。琉球大学医学部附属病院では、リンクナースのスクリーニングにより完全ではないが大部分をリストアップできるようになった。残りの 2 病院では、リストアップの準備中である。

(2) 基本情報と処方内容の取得

豊見城中央病院および南部病院では、電子カルテからの基本情報と処方内容の取得のシステムが完成し、取得を行っている。その他の 3 病院では、現在、準備中である。

(3) 経過記録表を観る

豊見城中央病院および南部病院では、経過記録表を作成し、確認している。その他の 3 病院では、現在、準備中である。

(4) 診察記録を観る

(5) 照会内容の作成

(6) 内容の保存

現在、(4)、(5)、(6)とも準備中である。

3. フィードバックの準備のための研修会

日時：2014 年 12 月 4 日（土）12：00～15：00

場所：沖縄県医師会館

参加人数：81 名（医師 15 名、看護師 44 名、薬剤師 11 名、その他 11 名）

講師：青森県立中央病院緩和医療科科長

同病院緩和ケアチーム専従看護師

同病院システムエンジニア

中京病院緩和支援医療科部長

内容：前述の4名による講演会とパネルディスカッション、及び質疑応答

アンケート結果：

沖縄県内の拠点病院や主要病院の緩和ケア担当医師の多くが参加した。この研修会への参加で緩和医療に関する日常診療・業務の改善・向上につながるが88.7%、この研修会を施設の同僚に勧めるが84.9%であった。

4. 個別の医師を対象としたフィードバック

現在、準備中である。

5. 施設全体へのフィードバック

(1) 施設幹部へのフィードバック

現在、準備中である。

(2) 結果を参考にしての院内研修会による全職員に対するフィードバック

現在、準備中である。

全職員対象のフィードバック前の準備として、琉球大学医学部附属病院では、①毎週の緩和ケアチームカンファレンス、②毎月のリンクナースカンファレンス、③毎月の緩和ケアセンター連絡会議（全診療科及び関係する全部より委員が参加）、④年1回の院内看護研究発表会（殆どの看護職員が参加）にて、フィードバックを行っている。

6. フィードバック前後での除痛率等のデータの解析

全職員等を対象のフィードバックが行えなかったため、前後での除痛率等のデータの解析は行えなかった。

考察

対象病院のうち、3病院（琉球大学医学部附属病院、豊見城中央病院、南部病院）では、入院患者に対する連日の痛みのスクリーニングが80%以上達成できた。しかし、疼痛率及び除痛率に関しては、データが安定せず、ある一定の傾向は見いだせなかった。疼痛率と除痛率の結果を、緩和ケアチームや各診療科の担当医師、多くの看護師にはフィードバックができた。

一方、那覇市立病院、沖縄県立中部病院では、がん患者への連日（入院患者）もしくは毎回（外来患者）の痛みのスクリーニングが導入できなかった。

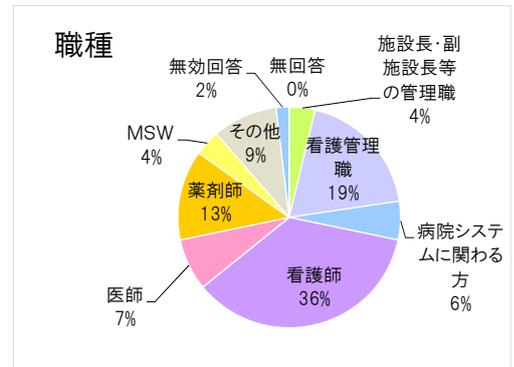
また、教育介入（フィードバック）に関しては、施行できなかった。結果として、オピオイドの消費量が増加するかどうかを検証することができなかった。

◆◆あなた自身について

<Q1> あなたの職種を教えてください。

SA

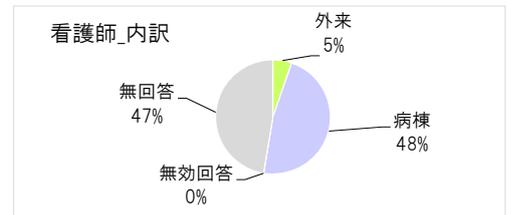
職種	度数	%	有効%
1 施設長・副施設長等の管理職	2	3.8%	3.8%
2 看護管理職	10	18.9%	19.2%
3 病院システムに関わる方	3	5.7%	5.8%
4 看護師	19	35.8%	36.5%
5 医師	4	7.5%	7.7%
6 薬剤師	7	13.2%	13.5%
7 MSW	2	3.8%	3.8%
8 その他	5	9.4%	9.6%
99 無効回答	1	1.9%	
999 無回答	0	0.0%	
総計	53	100.0%	100.0%
有効回答 小計	52		



看護師 内訳

SA

内訳	度数	%	有効%
1 外来	1	5.3%	10.0%
2 病棟	9	47.4%	90.0%
99 無効回答	0	0.0%	
999 無回答	9	47.4%	
総計	19	100.0%	100.0%
有効回答小計	10		
確認用	0		



その他 詳細

- ・ 心理士
- ・ 理学療法士
- ・ 地域包括センター
- ・ 訪問看護ステーション
- ・ テルモ(株)本社、疼痛緩和事業リーダー

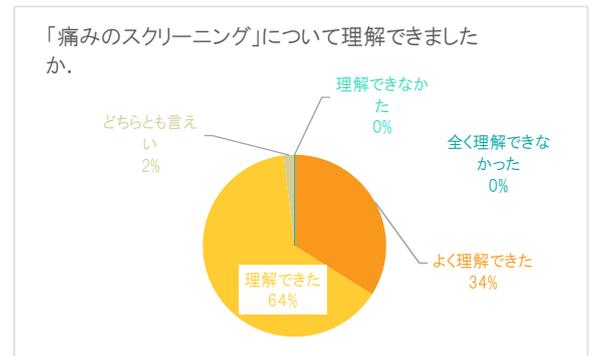
FA

◆◆「沖縄県除痛率改善研修会」について

<Q2> 「痛みのスクリーニング」について理解できましたか。

SA

理解度	度数	%	有効%
5 よく理解できた	18	34.0%	34.0%
4 理解できた	34	64.2%	64.2%
3 どちらとも言えない	1	1.9%	1.9%
2 理解できなかった	0	0.0%	0.0%
1 全く理解できなかった	0	0.0%	0.0%
99 無効回答	0	0.0%	
999 無回答	0	0.0%	
総計	53	100.0%	100.0%
有効回答 小計	53		



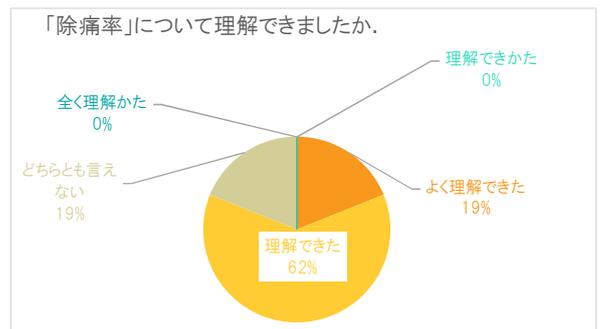
コメント

FA

<Q3> 「除痛率」について理解できましたか。

SA

理解度	度数	%	有効%
5 よく理解できた	10	18.9%	18.9%
4 理解できた	33	62.3%	62.3%
3 どちらとも言えない	10	18.9%	18.9%
2 理解できなかった	0	0.0%	0.0%
1 全く理解できなかった	0	0.0%	0.0%
99 無効回答	0	0.0%	
999 無回答	0	0.0%	
総計	53	100.0%	100.0%
有効回答 小計	53		



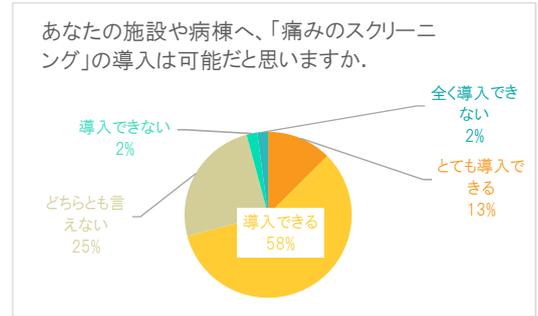
コメント

FA

<Q4> あなたの施設や病棟へ、「痛みのスクリーニング」の導入は可能だと思いますか。

SA

	度数	%	有効%
5 とても導入できる	6	11.3%	12.5%
4 導入できる	28	52.8%	58.3%
3 どちらとも言えない	12	22.6%	25.0%
2 導入できない	1	1.9%	2.1%
1 全く導入できない	1	1.9%	2.1%
99 無効回答	0	0.0%	
999 無回答	5	9.4%	
総計	53	100.0%	100.0%
有効回答 小計	48		



コメント

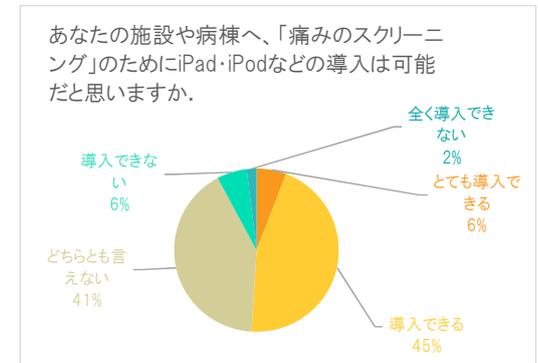
FA

- ・入院患者でオピオイドを使用している場合は看護記録(電カル但し、外来はできない)で毎日確認している(フェイススケール)
- ・導入している
- ・導入している。
- ・導入中

<Q5> あなたの施設や病棟へ、「痛みのスクリーニング」のためにiPad・iPodなどの導入は可能だと思いますか。

SA

	度数	%	有効%
5 とても導入できる	3	5.7%	5.9%
4 導入できる	23	43.4%	45.1%
3 どちらとも言えない	21	39.6%	41.2%
2 導入できない	3	5.7%	5.9%
1 全く導入できない	1	1.9%	2.0%
99 無効回答	0	0.0%	
999 無回答	2	3.8%	
総計	53	100.0%	100.0%
有効回答 小計	51		



コメント

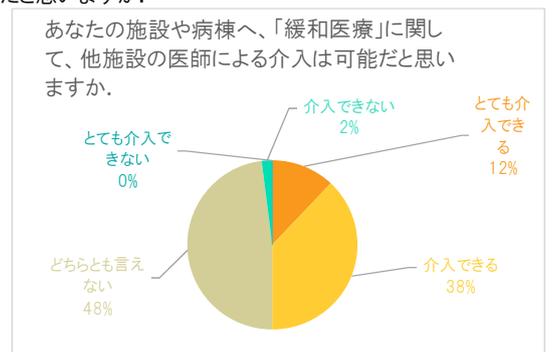
FA

- ・外来はできると思います
- ・予算の関係
- ・がん診療への補助ができればよいと思う。
- ・予算がつけばですが。

<Q6> あなたの施設や病棟へ、「緩和医療」に関して、他施設の医師による介入は可能だと思いますか。

SA

	度数	%	有効%
5 とても介入できる	6	11.3%	12.0%
4 介入できる	19	35.8%	38.0%
3 どちらとも言えない	24	45.3%	48.0%
2 介入できない	1	1.9%	2.0%
1 とても介入できない	0	0.0%	0.0%
99 無効回答	0	0.0%	
999 無回答	3	5.7%	
総計	53	100.0%	100.0%
有効回答 小計	50		



コメント

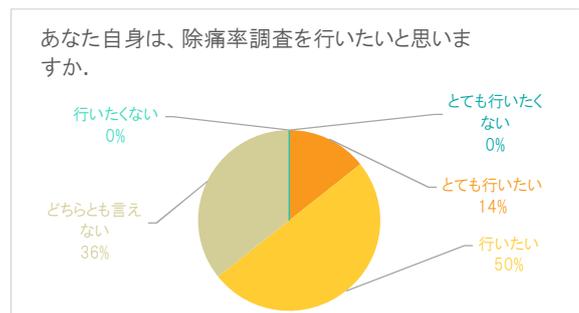
FA

- ・在宅訪問医が緩和ケアへの6カ月間参加され、在宅診療も情報が入り効果的だった

<Q7> あなた自身は、除痛率調査を行いたいと思いますか。

SA

	度数	%	有効%
5 とても行いたい	6	11.3%	14.3%
4 行いたい	21	39.6%	50.0%
3 どちらとも言えない	15	28.3%	35.7%
2 行いたくない	0	0.0%	0.0%
1 とても行いたくない	0	0.0%	0.0%
99 無効回答	0	0.0%	
999 無回答	11	20.8%	
総計	53	100.0%	100.0%
有効回答 小計	42		



コメント

FA

- ・すでに行っている

<Q8> あなたの施設または病棟は、除痛率調査へ参加が可能だと思いますか。

SA

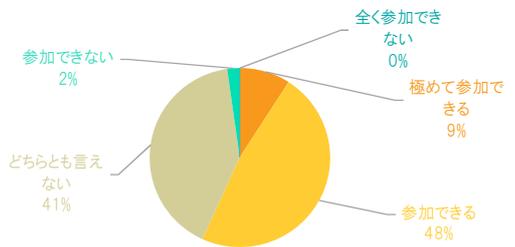
	度数	%	有効%
5 極めて参加できる	4	7.5%	9.1%
4 参加できる	21	39.6%	47.7%
3 どちらとも言えない	18	34.0%	40.9%
2 参加できない	1	1.9%	2.3%
1 全く参加できない	0	0.0%	0.0%
99 無効回答	0	0.0%	
999 無回答	9	17.0%	
総計	53	100.0%	100.0%
有効回答 小計	44		

コメント

FA

・対象病院ではないと思います。

あなたの施設または病棟は、除痛率調査へ参加が可能だと思いますか。



◆ <Q8-2>

Q8で、「参加できない」、「極めて参加できない」と答えた方へお伺いします。その理由は何ですか。

MA

	除痛率に対する知識不足	電子カルテ等が対応できない	院内の協力体制の問題	人材不足	その他	無回答	総計
度数	1	0	0	1	0		2
%	100%	0%	0%	100%	0%		200%
対象者数	1						

人材不足 詳細

MA

	(看護師)	(看護師以外のスタッフ)	(データを取り纏める人)	人材不足 小計
度数	0	0	0	0
%	0%	0%	0%	0%
対象者数	1			

その他 詳細

FA

<Q9> この研修会への参加は、あなたの緩和医療に関する日常診療・業務の改善・向上につながりますか。

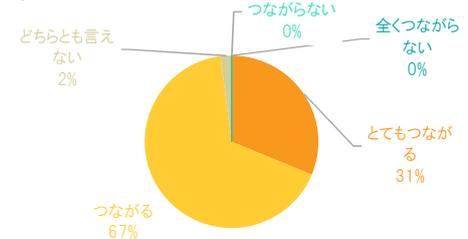
SA

	度数	%	有効%
5 とてもつながる	15	28.3%	31.3%
4 つながる	32	60.4%	66.7%
3 どちらとも言えない	1	1.9%	2.1%
2 つながらない	0	0.0%	0.0%
1 全くつながらない	0	0.0%	0.0%
99 無効回答	0	0.0%	
999 無回答	5	9.4%	
総計	53	100.0%	100.0%
有効回答 小計	48		

コメント

FA

この研修会への参加は、あなたの緩和医療に関する日常診療・業務の改善・向上につながりますか。



<Q10> この研修会への参加を、あなたの施設や病棟の同僚に勧めたいと思いますか。

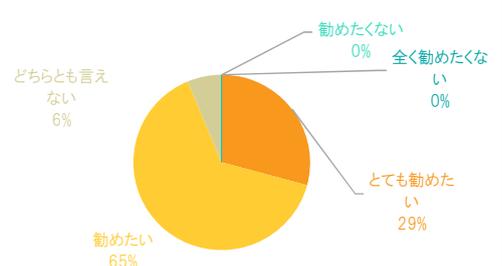
SA

	度数	%	有効%
5 とても勧めたい	14	26.4%	29.2%
4 勧めたい	31	58.5%	64.6%
3 どちらとも言えない	3	5.7%	6.3%
2 勧めたくない	0	0.0%	0.0%
1 全く勧めたくない	0	0.0%	0.0%
99 無効回答	0	0.0%	
999 無回答	5	9.4%	
総計	53	100.0%	100.0%
有効回答 小計	48		

コメント

FA

この研修会への参加を、あなたの施設や病棟の同僚に勧めたいと思いますか。



<Q11> 研修会で質問出来なかったことや研修会の感想をお聞かせください。

-
- ・ 化療チームの一員として日常化療の指導。副作用モニタリングと合わせてオピオイドの指導や副作用モニタリング→対策、痛みの評価→用量
-
- ・ 初めての参加でしたがとても参考になりました。NRSについて統一した聞き取りをしないといけないことがわかった。
-
- ・ 少しやる気が落ちていたけど頑張ろうと思いました。痛みで困っている方がいないように。
-
- ・ 薬剤師の介入について知りたいと感じました。
-
- ・ 地域(在宅)の中でがん治療の方々より電話相談を受けています。以前は、外来病棟や訪問看護をしていたので、アドバイスやセカンドオピニオン病院や専門外来の紹介、相談できる施設などの情報提供を行う仕事をしているので、今日、痛みのスクリーニングの勉強ができ、良かったと思っています。
-
- ・ 今回の研修は、私の思っていた内容とは違っていたため評価は3を選択させていただきました。しかし、研修を受けて収穫がありました。
山下先生の認定看護師の活動は大変ためになりました。私自身は、認定看護師ではないのですが、スタッフの中に1名います。何をどう活動をさせるべきなのかヒントを得ました。
ありがとうございました。
-
- ・ 当院でも除痛率を行っていますが、その結果をDrへうまく伝えられてない事を今後は検討していきたいと思います。
-
- ・ 青森の取り組みが具体的に分かり参考になりました。痛みゼロをめざしたいです。
-
- ・ 大変勉強になりました。参加させて頂きありがとうございました。
-
-

第2回 沖縄県除痛率研修会開催内容

日 時：平成26年12月6日（土）12：00～15：00

場 所：沖縄県医師会館

主 催：琉球大学医学部附属病院 がんセンター

テーマ：痛みのスクリーニングとその評価と対応

対 象：病院長・副病院長、医師、看護管理に携わる方、看護師、病院システムに関わる方
薬剤師、その他関心のある医療者

参加費：無 料

参加人数：医師（15名）、看護師（44名）、薬剤師（11名）、その他（11名）

内 容：○講演「声なき痛みのスクリーニング」

座長 中村清哉先生（琉球大学医学部附属病院緩和ケア副センター長・麻酔科准教授）
講師 的場元弘先生（青森県立中央病院緩和医療科 部長）

○講演「痛みを聴き、受け止め、痛みからの解放のために取り組んでいること」
～入院・外来におけるスクリーニングと緩和ケアチームとの連携～

座長 下地孝子先生（琉球大学医学部附属病院看護部長）
講師 山下 慈先生（青森県立中央病院緩和ケアチーム専従看護師）

○講演「がんの痛みの評価と治療のためのシステム(凡用型)の開発」

座長 高見洋二先生（友愛会豊見城病院情報システム課主任）
講師 三浦浩紀先生（青森県立中央病院医療情報部主査）

○講演「がんの痛みで苦しむ患者さんを減らすために何ができるか」
～現場からの知恵と工夫の紹介～

座長 友利寛文先生（那覇市立外科部長）
講師 吉本鉄介先生（社会保険中京病院 JCHO 緩和支援医療科部長）

○パネルディスカッション

座長 笹良剛史先生（沖縄県がん診療連携拠点病院緩和ケア部会長・友愛会南部病院診療部長）
パネリスト 的場元弘先生／山下 慈先生／三浦浩紀先生／吉本鉄介先生

研修会風景 (1)



研修会風景 (2)



研修会風景 (3)



研修会風景 (4)



研修会風景 (5)



研修会風景 (6)



第2回 沖縄県除痛率改善研修会

痛みの スクリーニングと その評価と対応

対象

- 病院長・副病院長
- 医師
- 看護管理に携わる方
- 看護師
- 病院システムに関わる方
- 薬剤師
- その他関心のある医療者

プログラム

- 12:00 開会挨拶
笹良 剛史先生(沖縄県がん診療連携協議会緩和ケア部会長・友愛会南部病院 診療部長)
- 12:05 〈座長〉 琉球大学医学部附属病院緩和ケア副センター長(麻醉科准教授) 中村 清哉先生
〈講師〉 的場 元弘先生(青森県立中央病院 緩和医療科 部長)
「声なき痛みのスクリーニング」
- 12:35 〈座長〉 琉球大学医学部附属病院 看護部長 下地 孝子先生
〈講師〉 山下 慈先生(青森県立中央病院 緩和ケアチーム専従看護師)
「痛みを聴き、受け止め、痛みからの解放のために取り組んでいること」
～入院・外来におけるスクリーニングと緩和ケアチームとの連携～
- 13:05 -----休憩(10分)-----
- 13:15 〈座長〉 友愛会豊見城中央病院 情報システム課主任 高見 洋二先生
〈講師〉 三浦 浩紀先生(青森県立中央病院 医療情報部主査)
「がんの痛みの評価と治療のためのシステム(汎用型)の開発」
- 13:45 〈座長〉 沖縄県立中部病院 乳腺外科部長 上田 真先生
〈講師〉 吉本 鉄介先生(社会保険中京病院 JCHO緩和支援診療科部長)
「がんの痛みで苦しむ患者さんを減らすために何ができるか」
～現場からの知恵と工夫の紹介～
- 14:15 -----休憩(5分)-----
- 14:20 パネルディスカッション
〈座長〉 笹良 剛史先生
パネリスト 的場 元弘先生/山下 慈先生/三浦 浩紀先生/吉本 鉄介先生
- 15:00 閉会挨拶
増田 昌人(琉球大学医学部附属病院がんセンター長・診療教授)

日時：平成26年 **12/6** 土
開場11:30～ 開演12:00～15:00
場所：沖縄県医師会館(3階ホール)
主催：琉球大学医学部附属病院がんセンター



参加費無料
申込不要

※この研修会は、公益財団法人
世川記念保健協力財団から
助成を受けています。

お問合せ

琉球大学医学部附属病院 がんセンター

E-mail mail@ryukyucc.jp

TEL:098-895-1374 FAX:098-895-1497

ホームページ http://www.ryukyucc.jp

「第2回沖縄県除痛率改善研修会」アンケート

2014年12月6日(土)

沖縄県のがんの痛みで苦しむ患者さんを少しでも減らすため、参加者の皆様の率直なご意見を頂戴したく思います。次回の研修会の参考にさせていただきたく、本アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

◆◆あなた自身についてお伺いします。 _____

・主なもの1つを選び、○をつけてください。

<Q1> あなたの職種を教えてください。

- 1.施設長・副施設長等の管理職 2.看護管理職 3.病院システムに関わる方
4.看護師(外来/病棟)
5.医師 6.薬剤師 7.MSW 8.その他(※具体的にご記入ください)

◆◆「沖縄県除痛率改善研修会」についてお伺いします。 _____

・あてはまる数字1つに○をつけてください。

・コメントがありましたら()へご記入ください。

<Q2> 「痛みのスクリーニング」について理解できましたか。

5	4	3	2	1
よく理解できた	理解できた	どちらとも言えない	理解できなかった	全く理解できなかった
コメント:()				

<Q3> 「除痛率」について理解できましたか。

5	4	3	2	1
よく理解できた	理解できた	どちらとも言えない	理解できなかった	全く理解できなかった
コメント:()				

<Q4> あなたの施設や病棟へ、「痛みのスクリーニング」の導入は可能だと思いますか。

5	4	3	2	1
導入できる	どちらとも言えない	導入できない	全く導入できない	全く導入できない
コメント:()				

<Q5> あなたの施設や病棟へ、「痛みのスクリーニング」のためにiPad・iPodなどの導入は可能だと思いますか。

5	4	3	2	1
とても導入できる	導入できる	どちらとも言えない	導入できない	全く導入できない
コメント:()				

<Q6> あなたの施設や病棟へ「緩和医療」に関して、他施設の医師による介入は可能だと思いますか。

5	4	3	2	1
とても介入できる	介入できる	どちらとも言えない	介入できない	全く介入できない
コメント:()				

<Q7> あなた自身は、除痛率調査を行いたいと思いますか。

5	4	3	2	1
とても行いたい	行いたい	どちらとも言えない	行いたくない	全く行いたくない

コメント:()

<Q8> あなたの施設または病棟は、除痛率調査へ参加が可能だと思いますか。

5	4	3	2	1
極めて参加できる	参加できる	どちらとも言えない	参加できない	参加は極めてできない

コメント:()

◆<Q8-2> Q8で、「参加できない」、「参加は極めてできない」と答えた方にお伺いします。

その理由は何ですか。

・あてはまるものに✓をしてください。(複数選択可)

- 除痛率に対する知識不足
- 電子カルテ等が対応できない
- 院内の協力体制の問題
- 人材不足 (看護師 / 看護師以外のスタッフ / データを取り纏める人)
- その他 ()

<Q9> この研修会への参加は、あなたの緩和医療に関する日常診療・業務の改善・向上につながりますか。

5	4	3	2	1
とてもつながる	つながる	どちらとも言えない	つながらない	全くつながらない

コメント:()

<Q10> この研修会への参加を、あなたの施設や病棟の同僚に勧めたいと思いますか。

5	4	3	2	1
とても勧めたい	勧めたい	どちらとも言えない	勧めたくない	全く勧めたくない

コメント:()

<Q11> 研修会で質問出来なかったことや研修会の感想をお聞かせください。

声なき痛みのスクリーニング ～青森県立中央病院SPARCSの取り組み～

的場元弘 teamkanwa@gmail.com

青森県立中央病院 緩和医療科

SPARCS (Special Project for Awareness and Relief of Cancer Symptoms)



©SPARCS AOMORI 2012-2014



痛みを聴き、受け止め、痛みからの解放の
ために取り組んできたこと
～外来・病棟のスクリーニングと緩和ケアチームとの連携～
青森県立中央病院
山下 慈



汎用型痛みの治療システム

青森県立中央病院

医療情報部 三浦浩紀

平成26年12月6日

がんの痛みで苦しむ患者さんを
減らすために何かできるか
～現場の知恵と工夫の紹介～

沖縄除痛率改善研修会

平成26年12月6日

JCHO中京病院

緩和支援診療科・がん診療センター
青森SPARCSメンバー 吉本鉄介